

## 澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成27年3月12日（木）16：40～16：50

場所：内閣府

### 【冒頭発言】

現地時間の11日の朝9時から首席交渉官の全体会合2日目が始まった。冒頭、知的財産について、チェックイン（進捗の確認）が行われた。知的財産のワーキンググループは、9日からバイや少数国の協議をずっと行ってきたが、11日から全体会議に移行することから、その前に首席交渉官でチェックインを行うという趣旨である。ハワイ会合の前にも少数国の会合などを行っていたようであり、その進捗状況の報告が議長国からあった。知的財産は、進んでいるのかそうでないのか、皆さんの関心が高いところだと思うが、それだけに、何とも説明しにくい状況。閣僚に上がりそうな案件についても、これまでの膠着状態から、少しは動き出したという感じはする。閣僚に上げずに処理しようという案件は、パッケージリストにし、一つ一つ潰していくという作業をしており、進んでいると言えば進んでいるが、まだ多くの論点について各国が留保しているという状況。反対が留保に変わったことをもって進展と言えば、進展なのかもしれない。各首席交渉官から、パッケージリストについては、ハワイ会合中にできるだけ片付けよという指示が出されたようだ。首席交渉官会合では、土日に知的財産の議論をする予定なので、それまでにできるだけ進めるよう指示があった。

午前中の残りの時間は、物品貿易のテキストの議論があった。物品貿易のテキストは、物品の関税交渉と、いわば江戸、長崎の関係にある。関税交渉がどの国も難しい問題を残して厳しい交渉になっているので、テキストの議論については、個別の関税交渉とリンクはしないが、実際には、特定の論点についてこだわる国に對抗して、他の論点をぶつける国が出てくるなど、明らかに2国間の関税交渉を意識して、議論がなかなか収斂しない感じである。意外に多くの論点が残っているが、ある論点にこだわっている国が、関税交渉で取れるものが取れば旗を降ろすだろうというものもいくつかありそうなので、いま議論しているものが最後までどれ程残るか分からない状況。そういうことなので、我が国含め各国は、関税交渉と同じように辛抱強く対応している。

午前中の会議を12時半頃まで行い、その後、午後1時前からはバイ協議の時間となった。鶴岡首席交渉官は、2か国の首席交渉官とバイの協議を行った。

午後4時過ぎから全体会合が再開され、法的・制度的事項についての協議が行われた。法的・制度的事項で残っているのは、大きく分けて、紛争処理と透明性・腐敗防止である。腐敗防止は、日本以外の国ではこういうことを導入するのも大議論になるのか、という感じの議論が続いていたが、電話会議などで調整を続けてきたこともあり、今回、随分整理されたことから、時間の問題ということだと思う。紛争処理の方が本来的には難易度が高いが、こちらも非常にテクニカルな論点しか残っていない状況。法的・制度的事項は、今週中にもう一度議論することになっている。

並行して開催されているワーキンググループのうち、全体会合が行われたのは、昨日に引き続き、国有企業、知的財産、投資、法的・制度的事項、原産地規則（繊維含む）であり、これに加え、環境も開催された。物品貿易と政府調達は、バイの協議が行われた。

物品市場アクセスの協議は、事務方が2か国とバイの協議を行った。大江首席交渉官代理は、11日夕方に米国と協議を行った。結果の報告はまだ受けていない。

12日の首席交渉官の全体会合は、環境から始めることが決まっているが、その後の予定は流動的である。

【質疑応答】

（記者）

大江首席交渉官代理とヴェッター首席農業交渉官との協議は、ハワイ会合期間中、複数回行われるのか。

（澁谷審議官）

1回のみで協議を終えるということを決めているわけではない。

（記者）

物品貿易のテキストについて、ある論点で頑張っている国があるとのことだが、これは1つの国か。

（澁谷審議官）

いろんな国がいろんな論点について頑張っている。

（記者）

具体の関税の譲許表がまとまってくれば、テキストもまとまるのか。

（澁谷審議官）

そう期待している。

（以上）